

翻刻版

平野陶磁器コレクション解説書

東京工業大學

平野陶磁器コレクション解説書（東京工業大學本館塔屋第五階陳列）

本蒐集品ハ元東京高等工業學校教授平野耕輔氏ノ蒐集寄贈ニ係リ、明治中期時代以後昭和十年頃迄ニ至ル本邦陶磁器工業發達ノ一端ヲ示スベキ學校、試験所及工場ノ科學的研究試作品又ハ新規創製品標本ニシテ教育上參考資料タルモノナリ。

（注意）標本番號試トアルハ學校、試験所等ニ於ケル作品ニシテ工トアルハ工場ニ於ケル製品ナリ。

外ニ海軍造兵廠光學硝子試製品及滿鐵中央試験所窯業試験工場（自大正七年 至十一年）空洞硝子品質改良試作品標本アリ。

一、學校、試験所ノ試作品（試）

旭燒

旭燒ハワグネル先生ノ創製ニシテ先生ハ舊東京大學理學部講師トシテ在職中明治十六年釉藥ニ罅裂ナキ陶器ノ研究ニ着手セリ。其ノ目的ハ日本固有ノ繪畫描法ヲ釉藥上ニ施サンカ美術的趣味ヲ減殺スルノ憂アレドモ苦シ之ヲ釉下ニ施サンカ青華ト一般大ニ其ノ趣味ヲ増加スルヲ以テ、從來本邦ニテ製出シ得ザリシ低火度ニテ罅裂ナキ白色陶器ヲ創製セントシ、初メ之レガ試験體トシテ二錢銅貨大ノ素地ヲ造リ、之ガ燒成ニハ坩堝ヲ用ヒ釉藥ノ熔融ニハ「マツフル」窯ヲ使用セリ。同十七年研究稍々進ミ小器物ヲ試製スルニ至リ、後大學ヲ離レ東京市小石川區江戸川町ニ先生自費ニテ小工場ヲ設ケ、大學當時ノ助手タリシ植田豐橘氏ニ製作ノ監督ヲナサシメ器物ヲ試作シツ、アリシガ、當時農商務省ノ補助ヲ得テ赤坂區葵坂ニ工場ヲ移シ、稍々大ナル器物ノ製作

ヲ研究セリ。其ノ製品ヲ吾妻焼ト稱シ器物ノ裏面ニ褐色ノ吾妻焼印ヲ押セリ（製品參照）。同二十年之ガ試験製造全部ハ藏前ノ舊東京職工學校ニ移リ、旭焼ト改稱シ同校ニ於テ同二十六、七年頃研究試作シタリ（製品參照）。又別ニ之ヲ工業商品化セントシ、明治二十三年有志ノ資本ニ依リ東京市深川區東元町ニ旭焼製造工場ヲ設ケ、植田豊橘氏經營ノ任ニ當リ專ラ暖爐用「マントルピース」ノ「タイル」ヲ製造シ（製品參照）輸出ヲ目的トシタルモ時期尚早ナリシカ同二十九年工場ヲ閉鎖スルノ止ムナキニ至レリ。

本蒐集品ハ各時代ノ製品ヲ示ス。

試一、旭焼 鉢

本品ハ明治十七年東京市小石川區江戸川町ワグネル先生試験所ノ試作品ニシテ植田豊橘氏ノ製作監督ニ係ルモノナリ。

試二、旭焼 皿

本品ハ明治十八年東京市赤坂區葵坂ノワグネル先生試験工場ニ於テ吾妻焼ト命名試作シタルモノナリ。

試三、旭焼 額皿（山水畫）

試四、旭焼 額皿（鴛鴦畫）

本額皿ハ明治二十年東京職工學校内ニ在來ノ吾妻焼ヲ旭焼ト改名其ノ試験工場ヲ設ケ明治二十六、七年頃研究試作シタルモノ、製品ナリ。

試五、磁器染附 茶碗

明治三十一年東京工業學校窯業科ニ陶磁器ノ石炭焼成ヲ工業化スル爲大形五室ノ連續窯ヲ新設シ、之レガ試験ヲナシタル際ノ染付磁器ナリ。本試験窯ニテ焼成シタル作品ニハ特ニ石炭焼ナル名ヲ記セリ（明治三十二年商工局報告参照）。

新製マジヨリカ（試六、灰皿。試七、鉢。試八、額皿）

本品ハ明治三十六、七年頃東京工業學校窯業科ニ於テ獨逸「マジヨリカ」ニ準ジ研究シタル石灰質陶器ニシテ、日本趣味化シタルモノ、本邦ニ於ケル此ノ製品ノ創始ナリトス（別冊パンフレット參照）。

参考品（試九）

本品ハ獨逸「マジヨリカ」ニテ明治三十五年獨逸ニテ參考ノ爲購入シタルモノナリ。

東京工業試験所試作品（自試一〇至試一五）

磁器試作品（試一〇、小皿。試一一、茶碗。試一二、皿。試一三、德利）

本品ハ大正初年東京工業試験所ニ於テ朝鮮慶尚南道産磁土（河東「カオリン」）ヲ用ヒ始メテ試作シタルモノニシテ、本邦ニ於ケル純白硬質磁器ノ創製ニシテ本邦磁器ノ改善ニ一大劃期ヲナシタルモノナリ（大正五年三月東京工業試験所第十回報告參照）。

試十四、硬質陶器 皿

本品ハ大正初年東京工業試験所ニ於ケル硬質陶器研究試作品ニシテ本基礎的研究ハ本邦ノ硬質陶器改善ニ資シタルコト大ナリ。

試一五、額皿

本品ハ大正四、五年頃東京工業試験所ニ於テ試作シタルモノニシテ硬質陶器釉下ニ染附繪畫ヲ試ミ筆勢ヲ現シタルモノナリ。

試一六、茶碗

本品ハ元京都市立陶磁器試験場（本場ハ明治二十九年京都市ノ設立ニ係ル本邦最初ノ陶磁器試験場ナリ）ニ於ケル明治三十五、六年頃ノ改良素地染付試作品ナリ。

試一七、半磁器

本邦ニ於ケル半磁器ナル名稱ハ明治三十五、六年頃？元京都市立陶磁器試験場ニ於テ從來ノ粟田陶器ニ一新生面ヲ開クベク研究シタル白色無髒釉（素地、釉藥共同火度焼成）ノ陶器ニ命名シタルニ始マリタルモノヲ、現今四日市ニ於テ大正以來大正萬古トシテ命名創製セルモノヲ又半磁器ト通稱ス。本品ハ元京都市立陶磁器試験場ノ試作品ナリ。

滿鐵中央試験所元窯業試験工場製品（自試一八至試二〇）

明治四十五年滿鐵中央試験所ニ窯業試験工場ヲ設置シ陶磁器、耐火煉瓦、硝子等ノ窯業ニ關スル製造試験ニ着手シ滿洲ニ於テ該品種ヲ創製シ何レモ今日ノ製造工業化ノ基礎ヲナシタルモノナリ（個別説明別紙参照）。

試一八、花瓶

本品ハ大正二年頃ノ試作品ニシテ支那景德鎮ノ上繪付工ヲ招聘シテ彩畫シタルモノナリ。

試一九、井

本品ハ大正二年頃ノ試作品ニシテ滿洲向粗磁器ニテ滿洲ニ於ケル磁器ノ創製トス。

試二〇、井

大正二年頃ノ試作品ニシテ滿洲ニ於ケル粗磁器ノ創製トス。

商工省陶磁器試験所試作品（自試二一至試三二）

試二一、日本趣味ノ西洋食器各種

陶磁器試験所ニ於テ夙ニ之レガ製作ヲ唱道シ來リタルガ昭和八年度ヨリ商工省ノ輸出工藝振興策ヲ實現スベク商品化ノ試作ニ努力シタルモノナリ。即チ工藝品中各國共ニ需要多キ食卓用器ノ一層海外進出ヲ期シ、外品ノ模倣ニアラザル我國固有ノ特技、手工、經驗ヲ以テ東洋殊ニ日本趣味（日本美術及精

神ヲ主體トセルモノノ意匠ヲ加味スル西洋式食器ノ日本趣味化ヲ圖ラントスルモノナリ（別冊圖集參照）。

試二二、白雲陶器

本陶器ハ從來陶磁器素地原料トシテ使用セザリシ國産「ドロマイト」（白雲石）ヲ原料トシ苦灰質素地ニシテ陶磁器試驗所ノ新製ニ係リ昭和八年四月白雲陶器ト銘名セリ。即チ本陶器ノ特徴ハ

- 一、素地、釉藥共ニ低火度ニテ燒成シ釉藥ニ各色釉ヲ容易ニ發揮シ且釉下ノ釉畫發色ニ便ナラシムルコト、
- 二、輕量且收縮率ノ僅少ナルコト、
- 三、普通ノ輕量石灰陶器ニ比シ質ノ堅硬ナルコト、
- 四、素地ノ響キ良キコト、
- 五、素地色ハ原料ニ依リ純白、有色共ニ隨意ナルコト、

六、製産費ノ低廉ナルコト、
等ニシテ殊ニ輕量ナルガタメ輸出先ノ從量税ナル場合有利ナリトス。此ノ種
純白ノ陶器ノ製作ハ本邦ヲ以テ蓋シ嚙矢トスベシ。現下本陶磁器ハ「タイル」、
皿類、裝飾品等工業化シツ、アリ。

試二三、新製高火度釉マジヨリカ

在來ノ獨逸ノ陶器「マジヨリカ」ハ低火度ナルモ高火度釉（本燒磁器釉）ヲ
以テ高尚優美ニシテ日本趣味化セル裝飾及實用向ニ且多量生産的ニ廉價ノ工
藝品ヲ製出セントスルニ在リ。

試二四、「ポーンチャイナ」

昭和九年ノ試作品ナリ。

新製陶試紅應用ノ磁器

本品ハ陶磁器試験所創製（昭和九年）「陶試紅」（高火度用紅色顔料）ヲ磁器
坯土ニ混合シタルモノナリ。從來高火度桃色ノ顔料ハ主トシテ黄金化合物ナ
ルガ爲價格不廉ニシテ廣ク一般ニ應用シ得ザリシガ、研究ノ結果安價ニシテ
且呈色安定ナル顔料ノ調製ニ成功シタルヲ以テ「陶試紅」ト銘名シ、昭和九
年之レガ顔料製造ヲ瀬戸市藤井陶料製造所ニ委託シ廣ク販賣セシムルコト、
セリ（別冊パンフレット参照）。

爾來輸出向玩具又ハ飲食器具其ノ他工藝品ノ素地、釉藥ノ著色劑又ハ下繪具
等顔料トシテ使用スルニ至レリ。

試二五、金魚 沼田一雅氏原型

試二六、人形 瀬戸某工場ノ輸出向玩具

古來釉藥應用ノ試作品（試二七、均窯鉢。試二八、玳皮蓋天目鉢）

支那宋代及清朝官窯等ニ見ル豪華端正ナル色釉ニ就テハ東洋殊ニ歐米ニ於テ既ニ定評アル高價高級品ナルガ、現代ニ於テ之レガ模倣ハ又技術上至難トスルトコロナルモ、科學的ニ研究シ製出ヲ容易ニシ之レヲ各種ノ實用品、裝飾品等工藝品ニ應用セントセリ。本品ハ其ノ試作品ノ一ツナリ。

陶材ト他材料トノ結合ニナル新規製品

試二九、ドア押板

試三〇、ドア、ハンドル

試三一、鋸屑焼成染付磁器 皿、バタ入

由來東洋磁器染付（青華）ノ如キ釉下色料ノ發色ニハ薪材焼成ヲ優良トスルモ薪材ハ不廉ナル故陶磁器試験所ニ於テ昭和八、九年頃ヨリ先ヅ製材ノ副産物タル鋸屑ヲ利用シテ高熱ヲ發生セシムル研究ヲナシ之ニ成功シ、木質材料粉末焼成法ノ特許ヲ得タルモノニテ本品ハ其ノ焼成成績品ナリ。

試三二、新製「陶試辰砂」花瓶

古來銅呈色ノ磁器辰砂釉ハ、其ノ色極メテ艷麗優雅ニシテ、世界的ニ珍重セラレタリ。然ルニ其ノ發色ハ頗ル不安定ニシテ、燒成技術上甚ダ至難トセラ
ル。

本品ハ陶磁器試験所ニ於テ昭和十年來科學的ニ研鑽ヲ重ネタル結果、遂ニ同
十一年辰砂釉ト同様ノ色彩ヲ高火度ノ磁器釉ニ、又其ノ紋様ニ、容易ニ且安
定ニ表現シ得ルコトニ成功セリ。本品ハソノ試作品ニシテ同所ハ之ニ「陶試
辰砂」ト命名セリ。

二、工場製品（工）

工一、肉皿 染付

工二、肉皿 錦手

有田香蘭社

本品ハ明治十一年有田香蘭社初代深川榮左衛門ガ佛國式肉皿製造機ヲ輸入シ製作シタルモノニシテ本邦ニ於ケル陶磁器製造ニ機械ヲ使用シタル嚙矢ナリ。

工三、染付磁器 角皿 友玉園加藤友太郎製

明治十五年東京市牛込區新小川町ニ設ケラレタルワグネル先生創意ニ係ル燒窯ハ煉瓦ニテ築造セル本燒室ニ小素燒室ヲ連續セルモノニシテ薪材又ハ石炭ヲ以テ燃燒シ得ベク本邦ニ於ケル登窯ヲ單獨窯ニ改メタルモノ、嚙矢ナリ。而シテ同窯ハ同十六年ヨリ加藤友太郎ノ所有トナリ友玉園ト稱シ陶磁器ノ製造ヲ經營セリ。即チ本品ハ同窯ニテ薪材ヲ以テ燒成シタルモノナリ。

工四、硬質磁器 蓋物
工五、硬質磁器 急須

松村硬質陶器株式會社

本品ハ松村硬質陶器株式會社々長松村八次郎氏ノ研究ニヨリ明治二十九年純白硬質磁器ヲ創製シ專賣特許（特許第二七九七號）ヲ得タル試作品ナリ。當時未ダ工業化セザリシモ本邦ニ於ケル純白硬質磁器最初ノ試作品ナラン。

工六、硬質陶器 肉皿

工七、同 肉皿

工八、同 紅茶碗皿

工九、同 水差

松村硬質陶器株式會社

英國製硬質陶器ニ準ジ西洋食器ヲ本邦ニ於テ始メテ工業的ニ製出シタルモノハ明治三十五年名古屋市ニ設立ノ松村硬質陶器合名會社ニシテ本品ハ明治三十六年頃ノ製品ナリ。

硬質磁器皿 日本陶器株式會社（自工一〇至工一二）

獨塊ニ産出スル長石質硬質磁器ニ準ジ本邦ニ於テ西料食器ヲ始メテ工業的ニ製出シタルモノハ明治三十七年設立ノ名古屋市日本陶器株式會社ナリ。

工一〇、磁器 皿

明治四十一年頃ノ改良素地ナリ。

工一一、同 七寸皿

大正二年七月上繪付最初ノ直通窯ニテ焼成シタルモノナリ。

工一二、同 五寸皿 パン皿

昭和九年八月一日トンネル窯第一回焼成見本品ナリ。

工一三、ポーンチヤイナ（骨灰磁器） 日本陶器株式會社

本品ハ名古屋日本陶器株式會社ニ於テ英國「ボーンチャイナ」ニ準ジ研究製出シタル骨灰磁器ニテ、昭和六年十月第一回製作ノ見本ナリ。本邦ニ於テ「ボーンチャイナ」ヲ商品化シタル嚙矢ナラン。

工一四、磁器 肉皿 名古屋製陶所

本品ハ名古屋製陶所大正四年ノ製品ナリ。從來肉皿トシテハ「獨逸形」ト稱スル高臺ノ高キモノニシテ皿ノ底少シク下リテモ苦ニナラザル形ナリシガ、此ノ皿ハ其ノ當時「佛蘭西形」ト通稱シ高臺低ク底ノ下ラザル（現今ノ肉皿ノ形）モノヲ始メテ製作セラレタル記念品ナリ。

工一五、硬質陶器 花盛器

工一六、同 肉皿

東洋陶器株式會社

工一七、同 紅茶碗皿

東洋陶器株式會社ハ大正六年ノ創立ニシテ特許「ドレスラー」式本燒隧道窯ヲ輸入建設大正九年一月完成火入ヲナシタルモノニシテ、專ラ硬質陶器、衛生陶器ヲ燒成ス。是レ本邦ニ於ケル陶磁器燒成ニ隧道窯ヲ使用シタル嚙矢ニシテ陶磁器ノ燒窯ニ劃期的ノ進歩ヲ示スモノナリ。本品ハ同窯ニテ燒成シタル硬質陶器製品ナリ。

工一八、高壓碍子 松風工業株式會社

松風工業株式會社ノ前社長松風嘉定氏ハ明治三十七八年頃電氣用高壓碍子ノ研究ヲ完了シ、明治三十九年同社ヲ設立シ高壓碍子ヲ製出スルニ至リタリ。是レ蓋シ本邦ニ於ケル嚙矢ナランカ。

工一九、化學磁器 蒸發皿 松風工業株式會社

本邦ニ於テ化學磁器（蒸發皿ノ類）ノ優秀品ヲ製出スルニ至リタルハ大正初年京都松風工業會社ヲ始メトシ東京石川製陶所、大阪西村工業會社等ニシテ本品ハ松風工業會社ノ製品ナリ。

工二〇、陶齒 松風陶齒株式會社

陶齒ノ製造ハ明治三十年頃ヨリ東京其ノ他ニ於テ僅ニ試作販出セラレタルモノアリシモ完全ナル製品ヲ見ザリシガ、大正八年京都松風陶齒研究所ニ於テ完成シ同十一年松風陶齒製造株式會社ノ創立ヲ見、外國製品ニ劣ラザル又本邦人ニ適當ナル陶齒ヲ製造販出シ輸入ヲ防遏スルニ至レリ。本品ハ其ノ製品ナリ。

工二一、白磁 紅茶碗 大倉陶園

佛國ノ純白磁器ニ準ジ最高級磁器製トシテ洋食器ヲ試作シ市場ニ販出シタル
 八大正七年設立ノ東京大倉陶園ニシテ本邦ニ於ケル嚆矢トス。本品ハ同園ノ
 作品ナリ。

タイル 淡陶株式會社（自工二二至工二四）

工二二、明治三十年以前ノ手押成形

工二三、同 四十年以前ノ手押成形

工二四、同 四十一年以後ノ乾式成形

工二五、白雲陶器 タイル 日本タイル株式會社

本品ハ昭和八年陶磁器試験所創製ノ白雲陶器ヲ本邦ニ於テ始メテ「タイル」
 製造ニ應用シ工業化シタル製品ナリ。

工二六、白雲陶器 肉皿 白川製陶株式會社

本品ハ昭和八年陶磁器試験所創製ノ白雲陶器ヲ本邦ニ於テ始メテ肉皿ニ應用シ工業化シタル製品ナリ。

工二七、旭焼 タイル

明治二十三年有志ノ資本ニ依リ東京市深川區東元町ニ旭焼製造工場ヲ設ケ植田豊橘氏經營ノ下ニ旭焼ノ商品化ヲ圖リタルモ時期尚早ナリシカ明治二十九年工場ヲ閉鎖スルノ止ムナキニ至レリ。同工場ニテハ主トシテ輸出向日本趣味化ノ釉下彩畫ノ「ストーブ」飾用「タイル」ヲ製作シタリ。本品ハ其ノ製品ニシテ蓋シ本邦ニ於ケル半乾式壓搾成形白色陶器「タイル」製造ノ嚆矢ナラン。

工二八、磁器 花瓶

本品ハ印度某工場ノ製品ニテ同工場技師ハ明治四十一年元東京高等工業學校窯業科選科出身ノ印度人グプター氏ナリ。

工二九、懸垂碍子 日本碍子株式會社

本懸垂碍子ハ本邦最初ノ磁器燒成用トンネル窯ニヨリ燒成セルモノナリ。日本碍子株式會社ハ昭和三年九月本邦ニ於テ始メテ直火燒成式トンネル窯（米國ハロツプ式會社特許）ヲ完成シ本品ハ之ニヨリ第一回ニ燒成セルモノナリ。是ノ方式ニヨリ特性非常ニ改良セラレ就中指數變動率（パーセンテージ・ヴアリエーション）極メテ良好トナレリ。當時ノ特性左ノ如シ。

耐電壓（油中破壞電壓） 一五〇、〇〇〇ヴォルト

同上 變動率 二・五%（普通ハ三・五%位）

抗張力 一〇、〇〇〇匁

同上 變動率 一〇%以下（普通ハ一五%位）

工三〇、耐酸ポンプ 日本碍子株式會社

磁器ハ機械強度ニ乏シク燒成後ノ加工亦極メテ難事ナリシガ、日本碍子株式會社ニ於テハ多年研究ノ結果遂ニ改良シテ耐酸性ヲ強大ナラシメ化學工業界ニ提供スルヤ忽チ斯界ニ其ノ眞價ヲ認識セラル。引續キ自由ナル工作ニヨリ電動機直結ノ渦卷ポンプ、送風機其ノ他諸機械並ニ容量等ヲ製作セルモノニシテ此ノポンプハ製作初期ノ製品ナリ。

當時ノ耐酸磁器ノ特性左ノ如シ。

強酸中ニ於テ一時間煮沸後ノ減量 ○・〇八以下

比重 二・四五

抗壓力 四、五〇〇 珎／平方糎

抗張力 四五〇 珎／平方糎

工三一、點火栓

日本碍子株式會社

日本碍子株式會社ハ永ク點火栓ノ研究ヲ行ヒ居タルガ點火栓專用ノトンネル
窯完成スルニ及ビ均一性ヲ確保スル事ヲ得、一方素地ノ高溫度ニ於ケル絶縁
性ノ向上及機械的強度ノ増加ヲ圖リテ從來研究中ノ點火栓ノ特性急激ニ向上
シ昭和五年十月一日ヨリ正式發賣ヲナスニ至ル。

本品ハ發賣當時ノ製品ニシテN G點火栓ト稱ス。其ノ後N G K點火栓ト改稱
シ今日ニ至ル。

三、光學硝子試製品

大正三年歐洲大戰勃發シ、我海軍造兵廠ニ於テ光學兵器ヲ創製スルニ際シ、其ノ主要材料タル光學硝子ヲモ試製スルコトトナリ、同四年十一月元東京高等工業學校教授平野耕輔氏ニコレガ指導ヲ依囑シ、同教授ハコノ難事業ノ遂行ニ關シ當時同校教授タリシ芝田理八氏ヲ推薦ノ結果、氏ハ同校ヨリ海軍技師ニ轉勤シ、爾來專心刻苦研究ノ結果從來本邦ニ於テ製造シ得ザリシ光學硝子ノ製法ヲ研究シテ兩三年ノ後緊急必要ナル數種ヲ完成セリ。同九年三月芝田技師ハ其ノ功ニヨリ勳六等單光旭日章ヲ授ケラレタリ。茲ニ陳列セル標本ハ當時ノ試製品中ヨリ採取シタルモノナリ。

四、滿鐵中央試驗所元窯業試驗工場空洞硝子製品

滿鐵窯業試驗工場ニ於テ本邦硝子品質ノ改善ヲ圖リ、同時ニ滿洲ニ於テ企業化セントスル目的ニテ大正六、七年度ニ工場ヲ新設シ獨逸ザウエルランド式「レジエネレチーブ」開口坩堝窯ト特許平野式硝子坩堝窯ヲ築造シ何レモ開口坩堝ニテ熔融シタルモノニテ本品ハ其ノ製品ナリ。

一、コップ各種

二、押型製品

三、切子井

四、硝子切子灰皿

五、硝子グラヴェキヤ灰皿

大正十二年「チエツコスローバキヤ」ノ「グラヴキヤ」師ルードルフ、イ
ーナー氏ヲ招聘シ「グラヴキヤ」技術ノ傳習ヲナシタリ。是レ本邦ニ於ケル
同技術ヲ輸入シタル嚆矢トス。本品ハ同氏ノ作品ナリ。

六、硝子グラヴキヤ花瓶

本品ハ「グラヴキヤ」ノ傳習ヲ受ケタル各務鑛三氏ノ作品ナリ。

七、硝子腐蝕花瓶

八、硝子赤色花瓶

九、硝子赤色花瓶

本品ハ「カドミウム」赤ノ研究試作品ナリ。